

## 4. わすれくさ(外)

山笠 六月十五日 博多祭



(刊) 大本四巻四冊  
[文化二年(1805)頃か]  
(大坂) 奇瀨【きえん】[撰]  
大坂 鹿島忠兵衛【かしま・ちゅうべえ】[板]  
京都 菊舎太兵衛【きくや・たへえ】[板]  
大坂 菊舎太介【きくや・たすけ】刷  
京都 菊舎太兵衛【きくや・たへえ】刷  
彩色版

1(A).2(B).『葵氏艶譜』に和文序を寄せ、3.『つはものつくし』序・撰者でもある奇瀨(花屋庵)撰による彩色版絵俳書。本文は「春上」「春下」「夏」「秋冬」の四冊。「春上」の「小朝拝、初卯詣」からはじまって「秋冬」の「鶴祭、宝舟」まで、各地の四季行事を描いた絵をはさんで、大坂を中心に江戸から長崎まで計二七四名(「秋冬」巻末「俳家名録」)による折々の発句が寄せられる。刊年は明記されておらず序跋も無いが、3『つはものつくし』と同じ頃の刊行と考えられるのは、同様の表紙が用いられている所からの推定。また、「春下」「夏」「秋冬」巻末に「俳家名録」と「画名家部」を所収し「秋圃(割書)筑前秋月藩中／葵氏」とあることから秋圃が大坂を離れた後の刊行とみられる。

絵師は、他に高島千春(京都住)、森徹山、岡熊岳、多賀子健、山中松年、宮本君山、中村芳中、長山孔寅、奥文鳴(京都)、上田公長、巢兆(江戸)の計十三名で、内十名が大坂在住者。秋圃は、中でも最多の三巻総計八図を担当(「春上」・「鶯替 正月七日太宰府」、「松囃 正月十五日筑前博多」(計二図)。「夏」・「(まいろむ(ペーロン)五月五日長崎)」、「さつを」(狩人)、「山笠 六月十五日博多祭」(計三図)。「秋冬」・「しらぬ火 七月三十日筑紫」、「御霊祭 八月十八日華洛」、「鶴祭 十一月上卯日能登」(計三図))。筑前ははじめ各地の行事や景物等を躍動感ある筆遣いで描く。特にペーロンや山笠の図は恐らく板本として画かれたものとして初めてではなかろうか。全図に、3『つはものつくし』と同様の落款「秋圃「秋」「圃」(朱陽刻連印)」がみられる。